

2021年10月17日

日本道德教育学会
会長 永田繁雄 先生

次世代育成 WG からの提案

次世代育成 WG

本 WG では、学会本来の目的を達成しつつそのプレゼンスを向上させることを課題として、委員より出された次世代育成に向けての意見を報告書としてまとめた。それらのなかで本 WG として早急に提案すべき点と今後検討を要する点を特に提案することとしてまとめるとともに、報告書での諸提案についてもできるところからぜひ着手していただきたい。

早急を実現すべき点

- テーマ別研究課題を年間に数件設定し、それぞれに研究グループを組織して、数年間の年限を設けて検討するプロジェクトを立ち上げること

年間活動費を支給（例えばプロジェクトごとに 50 万円程度）、その成果をシンポジウム、自由研究発表の時間等を用いたラウンドテーブル等で報告を義務とする。また、多様なメンバー構成（研究者、実践者、多様な年齢層・経験層等）として、研究スキルの向上、研修者と実践者のネットワークづくり、学会の「文化」伝承も期待される。導入期には理事会、研究委員会等が主導して設定しつつも、いずれはエントリー制なども取り入れる。本 WG であがったものとしては、①教育実践（授業内容、教材等）をアカデミックに調査分析・考察し、多様な授業モデル化等を行う、②学会としての研究の基本的スタンスについて共通理解を図る研究を行う、③過去の学会誌『道徳と教育』に掲載された論文をサーベイし、本学会がこれまで取り組んできた研究の概要をまとめる、等。

- 理事、評議員等の構成において学会員の年齢、ジェンダー等のバランスを反映すること、また、役員ではない学会員が自由に学会運営について意見を言うことができる機会を設けること

運営業務における次世代を育成することも急務。具体的には、理事・評議員に若手枠（40代まで）・女性枠を設ける、理事・評議員に多選制限を設ける、現職をもっているものみに限定する、等が考えられる。これらは会則改正も必要なことを含むが、委嘱（指名）理事、評議員の選出に当たっては上記の点を御考慮いただきたい。また、今回、本 WG は本学会にとって基幹となる次世代育成というテーマについて理事ではない学会員が検討する機会が与えられ、積極的な議論を行うことができた。この経験を踏まえれば、学会運営上の特定テーマについてこの種の委員会を設ける等の仕方で、学会員が意見を出し合い、学会の運営に携われる仕組みを用意することも学会運営に参画する意識を高める上でも有効なのではないか。

今後検討を要する点

● 学会員に一定割合存在する研修等へのニーズを充足するための仕組みを検討すること

学会としての研究を充実させるべきというニーズがある一方で、現職教員にとっては授業力向上のための研修ニーズも高いことが明らかとなった。例えば、授業づくりの支援、学会として認定道徳教師などの仕組みを設け、道徳科の授業研究を広く牽引する教員を育成し、研修についてのニーズを充足するような仕組みの可能性を検討することが必要。

● 報告書における諸提案の実現方策について検討し、実現できるところから着手すること

報告書における32の提案は本WGの委員から出された意見を集約したものであって、学会員のニーズが反映されている。それゆえ、これらのニーズについて、理事会、各委員会が実現方策を検討し、実現できるところから着手することをお願いしたい。以下の対応表は学会の運営について熟知しないまま、理事会、委員会に機械的に割り振らせていただいた。また、これまで扱われていないようなテーマについてはどこにも割り振っていない。以下の各テーマが会員のニーズとしてあることを御理解いただき、より適切な場で検討していただくをお願いしたい。

| 提案 | 理事会 | 企画運営 | 研究 | 編集 | 広報 |
|----------------------------------|-----|------|----|----|----|
| 1 研究 | | | | | |
| 1.1 テーマ別研究（課題研究）の設定の必要性 | | | ○ | | |
| 1.2 学会としての研究の基本的なスタンスの共通理解の必要性 | ○ | | | | |
| 1.3 政策提言をも視野に入れた学会への転換 | | | | | |
| 1.4 研究助成制度の創設 | | | | | |
| 1.5 学会誌『道徳と教育』の掲載論文数増加のための方策 | | | ○ | ○ | |
| 2 大会 | | | | | |
| 2.1 自由研究発表の運営方法への提案 | | ○ | | | |
| 2.2 基調講演、シンポジウム、自由研究発表の内容についての検討 | | | | | |
| 2.3 ラウンドテーブルの開催の検討 | | ○ | | | |
| 2.4 大会開催方法の多様な在り方についての検討 | | ○ | | | |
| 2.5 学会大会日程の設定についての検討 | ○ | ○ | | | |
| 2.6 模擬授業・研究実践発表の全国大会の実施 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2.7 託児所の設営 | ○ | ○ | | | |
| 3 人材育成・サポート | | | | | |
| 3.1 道徳の授業におけるスーパー教師等の授業実践の研究 | | | ○ | | |
| 3.2 優れた実践の選出と共有の検討 | | | ○ | | |
| 3.3 研究協力校及び研究協力校支援員の導入 | | | | | |
| 3.4 授業づくりのための支援 | | | | | |
| 3.5 認定道徳教師の創設に向けた検討 | | | | | |
| 3.6 研究支援のための研修の実施 | | | | | |
| 3.7 道徳教育関連書籍等の紹介 | | | | | ○ |
| 3.8 会員相互のネットワークづくり・交流の機会の設定 | | | | | |
| 3.9 学会員評価の導入 | | | | | |
| 3.10 研修講師・大学でのゲストスピーカー情報の共有 | | | | | |
| 3.11 若手研究者の確保 | | | | | |
| 4 運営 | | | | | |
| 4.1 学会運営層の年齢構成・ジェンダーバランスの検討 | ○ | | | | |
| 4.2 学会理事と若手学会員との意見交換の場の設定 | ○ | | | | |
| 4.3 学会員区分制の導入 | | | | | |
| 5 広報・外部連携 | | | | | |
| 5.1 学会員への情報提供の個別最適化 | | | | | ○ |
| 5.2 ICT等を活用した広報 | | | | | ○ |
| 5.3 オンラインデータベースの作成 | | | | | |
| 5.4 公開研究会の実施 | | ○ | ○ | | |
| 5.5 他組織等との連携 | | | | | |
| 5.6 出版社との連携 | | | | | |